

## 総務常任委員会視察研修報告書

視察地 : 島根県 海士町、隠岐の島町  
視察先 : 海士町内各施設、隠岐の島町ジオパークセンター、ジオポイント視察  
実施日 : 平成 29 年 7 月 19 日(水)～21 日(金)  
旅 費 : 701,070 円 (公費)

### 【視察目的】

#### 1. 島根県海士町

- (1) 隠岐島前高校魅力化プロジェクト視察
- (2) 隠岐國学習センターについて
- (3) 海士町内施設の見学・視察

#### 2. 島根県隠岐の島町

- (1) 隠岐ユネスコ世界ジオパークの取り組み、活かしたまちづくりについて  
ジオパーク活用、再認定の審査員に対するプレゼンの視察

### 【視察結果】

#### 【海士町】



#### 1. 視察地の概要

日本海の島根半島沖合約 60km に浮かぶ隠岐諸島の中の一つ中ノ島を「海士町」といい 1 島 1 町の小さな島。人口 2,293 人(2017 年 3 月 1 日)面積 33.46 km<sup>2</sup>、周囲 89.1km 本土からの交通は、高速船かフェリーで約 2～3 時間かかり、冬場は季節風が強く吹き荒れ、欠航して孤島化することも珍しくない外海離島である。

対馬暖流の影響を受け豊かな海と、名水百選(天川の水)にも選ばれた豊富な湧水に恵まれ、自給自足のできる半農半漁の島である。平城京跡から海士町の「干シアワビ」等が献上されていたことを示す木簡が発掘されるなど、古くから海産物の宝庫として「御食國 みけつくに」に任ぜられていた。奈良時代から遠流の島として遣唐副使の小野篁(おののたかむら)をはじめ、承久の乱(1221 年)で御配流の身と

なられた後鳥羽上皇は、在島 19 年余この島で御生涯を終えられた。「隠岐神社」に祀られ島民の畏敬の念は今も深い。

明治の文豪 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)は、隠岐旅行の際「菱浦港」を最も気に入り 8 日間も滞在されて、当時の様子を小説「知らぜらる日本の面影～伯耆(ほうき)から隠岐へ」に著している。

## 2. 視察目的

超過疎化・超少子高齢化・超財政悪化から脱却するために移住者を呼び込み交流人口増への取り組みやブランド発掘・育成・確立への産業振興策の調査。

## 3. 視察内容

全国からやって来る視察団・人に対しての受け入れ窓口は、観光協会が行っており視察日程、コース、料金等を明確に決めている。(今回の研修代 1 名 6,000 円) 専属説明員が港近くのホテルにおいて海士町の概要説明「ないものは ない～離島からの挑戦」ということで、自立・挑戦・交流の町政指針をスクリーン等で解説を聴く。後にバスで各施設を案内された。(当日は視察者が多く 34 名位いたが、平均 15～20 名位)

町は平成の大合併の嵐の中、覚悟の単独町制を決断する。自分たちの島は自ら守り、島の未来は自ら築くという住民や職員の地域への誇りと気概が自立への道を選択させた。

ところが、突然のように国の三位一体改革により、町税にも匹敵する地方交付税の大幅な削減は、島の存続さえも危うい事態に直面する。当時のシュミレーションでは、平成 20 年には確実に財政再建団体への転落が予測された。

そこで住民代表と町議会と行政が一体となり生き残りをかけた海士町自立促進プランを策定する。(H16.3)

「まずは自ら身を削らない改革は支持されない」の信念で町長が給与カット宣言すると管理職、議会も同じくし、職員組合からも自主カットの申し出がある。

H17 年度の人件費削減効果は約 2 億円有。

以後もカット率のバランスを取りながら続けている。この姿勢に対して町民の意識も大きく変革してきた。現在、財政事情は確実に改善に向かっている。

それと並行して、生き残るための攻めの戦略～島まるごとブランド化で地産地商～をたて 1 次産業の再生で先駆的な産業興しに取り組む。

このような説明を受け、島内をほぼ一周するコースで、町が事業主体の約 9 施設を廻る。(多くは施設外側からの視察)

主な所では、



『海士いわがき生産(株)』

島ブランド第1弾「島じゃ常識！さざえカレー」

H29年度売上目標 3,000万円「島の助っ人」商品開発研修生の発送と視点で商品化(商品開発研修生制度)とは[よそ者]の発送と視点で特産品開発やコミュニティづくりに至るまで海士にある全ての宝の山(地域資源)にスポットをあて商品化に挑戦する。



第2弾「いわがき 春香」平成18年現在50万個を養殖。県のブランド5品目に認定。平成29年度売上目標1億3,000万円、U・Iターン者と地元漁師が協力して養殖に成功。



『(有)隠岐潮風ファーム』

「隠岐牛」H16年建設会社100%出資  
公共事業の減少により建設業を営む経営者が異業種参入を決意。28年度売上255,890千円  
29年度目標270,000千円会社が農地を扱えるよう「潮風農業特区」を申請し農地法の規制緩和を受ける。ブランド化を目指し、勝負は品質に厳しい東京食肉市場に絞り込む。



『(株)ふるさと海士 CAS凍結センター』

「農・水産物を加工して特殊冷凍(CAS)」H16年農・水産物を加工し、特殊冷凍(CAS)して島外へ発信し、ブランド化の確立と外貨獲得を目指す。販売実績 (H18)41,705千円、  
(H19)59,000千円、(H28)209,054千円  
(H29目標)220,000千円、外食チェーン店、百貨店、通販、スーパーへ販売



### 『離島キッチン』

海士町観光協会が運営する飲食店(東京 神楽坂) 海士町観光協会が運営する。海士町の食材はもちろんのこと全国の島料を提供する。

### 『島前高校』



### 『島前高校魅力化プロジェクト』



廃校寸前から徒数がV字回復。島留学制度や公立塾設立。  
全国からも生徒が集まる魅力的な高校づくり高校と連携した公立塾。

#### 4. 考察【視察効果及び西予市での応用】

外海の小さな離島の小規模自治体という特異な立地をしっかりと受け入れ、「ないものは ない」と町長以下住民が覚悟を決めて、『自立・挑戦・交流』の町政の経営指針を掲げて前進している姿に魅力を感じた。

まず自立とは自治の原点であり、住民の肚決めである。海士町では自立促進プランを作り、徹底した行財政改革と新産業創出を強力に推進している。つまり攻守のバランスが取れている。この安定を求めることが自立することになるのだと考える。

挑戦とは攻めである。海士町では島まるごとブランド戦略で、島にあるものを磨き上げてブランド化している。出発は町が主導して進めていくが、そこに若者たち(よそ者)が参入して起業チャレンジしている。全国(特に首都圏)に発信している。海外(中国・米国)への輸出を始める。

交流は人づくりにつながる。交流が活発になると必ず地域活性化になる。海士町ではI・Uターン者や島留学生を主とした交流を通して人づくり、産業づくり、地域づくりが廻り始めている。

各事業は国の経済対策での国庫補助をうまく取り入れながら進めている。

## 5. 応用・提言

これら海士町の取り組みを視察して西予市に取り入れ活かせるものはないかと考えた時、自立・・・市役所は企業経営と同じく「住民総合サービス株式会社」なのだとの意識改革を徹底して行く。職員が地域を変えていく気概のもと、徹底した現場主義への組織変更が必要である。

各地域づくりのためには、そこに職員を貼り付け、目標値を掲げてそこに入り込むこと、目標＝結果に責任を持つこと。

現在の地域づくり交付金事業を中核として徹底的に地域、事業を深掘りしていく。その段階で今後は行政区の区割り変更についても考慮していくことも必要。

挑戦・・・地域製品のブランド化は必須条件。一つ一つジオブランド品を作り上げていく。そのための発想や拡販ルートづくりには、市外・内の企業や大学等との繋がり(連携)を作り上げていく。

市内の学校教育は今後の西予の未来を大きく変える。特に市内3高校の在り方については県立ではあるが、一番にはこの先、西予市にとって問題(生徒数減)だが生徒および地域においてもチャンスと成りえる。市として望ましい在り方を検討する時期になっている。ピンチはチャンス。

市内の小・中・高校の関係者での西予版学校教育確立の話し合いの場づくりが必要であり、スタートである。

交流・・・地域活性化の特効薬である。西予に求められるのは、移住者増は基本だが、特定の大学との繋がりを持ち多面での交流を密にすること。必ずや多方面の活性化が起こると考える。

## 【隠岐の島町】



### 1. 視察地の概要

隠岐諸島最大の島で、ほぼ円形をしており、島前同様に火山活動によってできた島。500m級の山々が連なり、そこからは平地へといくつも川が流れている。島の北西約 160km の沖合に竹島がある。人口約 15,000 人、面積：242.95 km<sup>2</sup>、周囲約 211km、牛約 500 頭、馬 8 頭。

小学校：7 校 中学校：4 校 高校：2 校 特別支援学校：1 校

承久の乱(1221 年)で隠岐に配流となった後鳥羽上皇をお慰めするために始まったと伝えられ、800 年近くの伝統を誇り日本最古の歴史を持つ闘牛。牛突き。

## 2. 視察目的

隠岐ユネスコ世界ジオパークの案内や自然環境(動物、昆虫、植物、海洋生物、岩石を紹介する展示施設及びジオサイトの運営・管理等の調査。

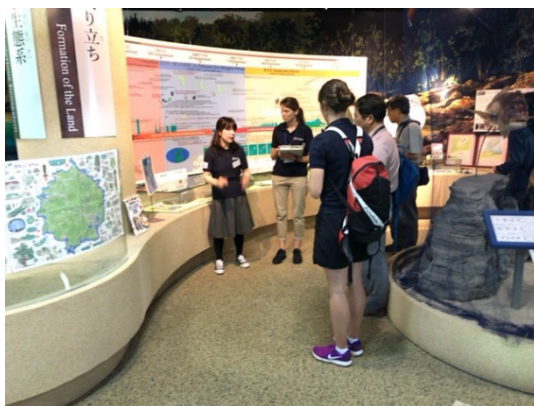
## 3. 視察内容

島の玄関口である西郷港に隣接する「隠岐自然館・隠岐ジオパークビジターセンター」は、港より徒歩 1 分の抜群の立地条件である。

ジオパークの案内や島の自然環境を展示紹介している充実した施設である。

専属の館長がガイドとしても、活躍している。ジオバスツアーや個人でのサイクリング周遊等の案内所、出発拠点施設である。

### 『隠岐自然館・隠岐ジオパークビジターセンター』



隠岐自然館：大人 300 円、小人 150 円 ジオパークビジターセンターは無料



半日バスツアーパンフ



ジオサイトにあるトイレ



サイトでの岩石紹介

#### 4. 考察

島(町)の最大の玄関口である西郷港にここに立ち寄れば全ての情報が解る拠点施設があり、来町者にとっては大変便利であり魅力を感じる。施設設備のレイアウトは、人の流れ、展示物の解りやすさや変更がスムーズにいくよう設計されている。

何と言っても館長のガイド振りには見習うところがある。観光乗合タクシーで数ヶ所のジオサイトを廻ったが、その運転手がいろいろな説明や質問に対応できる。数コースを用意して、各希望に対応している。

パンフにある全てのサイトに設置しているわけではないが、公衆トイレは概ね良好な状態に管理されている。

食事は特にジオ名を付けたメニューには出会わなかったが(店による)、島で採れる海産物や隠岐牛を主体にした品揃えである。

#### 5. 応用・提言

地形面で隠岐の島町と比較した時、西予市は東西に長くコンパクトではないが、周遊コースの上手な設定と組み合わせで、多種多様なコースが生まれると思う。

乗合タクシー等は必要だが、レンタサイクルの充実はしっかりと取り組むべきだ。

城川にできる拠点施設は、西予ジオの顔にするための工夫した設計、運営はもちろんだが、そこに係る施設職員の熱意が重要である。併せて長く広い地形の為、市外からの進入口が分散するが主な場所には拠点機能を補完できる施設と人材が必要である。宿泊と食事は市を魅力化していく重要項目である。宿泊は来年1月に民泊新法が施行されるようで、使いやすくなると聞く、そこで市内民泊の推進を図る。

食事はいろいろな品を考えているが、核となる食材、そのブランド化に注力していくことが求められる。

平成 29 年 9 月 15 日

総務常任委員会

委員長 菊池 純一